



1200年以上もの昔、この地に「お酒の神様」を祀った人々の想いとは・・・

松尾神社

平城天皇大同2年(807)
創立の歴史ある神社



山鹿市菊鹿町木野地区にある松尾神社は、今から約1200年前前に、京都の松尾大社からの遷宮により創建された。祭神は大山咋神(おおよまくいのかみ)で、その土地を見守る神様。またお酒の神様としても知られ、境内に書かれている御神徳の中にも、「醸造守護」とある。松尾大社からの遷宮を祝い、25年に一度行われる「遷宮祭」が今も続けられている。

由緒書き



お酒の神様とされる所以は、酒造りを得意としていた秦氏と関係があると言われている。秦氏は5世紀の頃、大陸から渡来し、日本に様々な技術等をも

たらした。彼らが大山咋神を氏神として信仰していたという。遷宮された1200年前と言えば、前項で紹介した「鞠智城」がまだ現役の時代。大陸との関係も複雑で、日本を守る防人も、松尾神社を信仰していたのかもしれない。士気を高めるために、酒造りを行っていたとも想像できる。近くには「酒造野(すその)」という小字(こあざ)名も残り、いろいろと想像を膨らませてくれる。今も秋季大祭などには、酒造りに係わる人が参拝している。



松尾神社本殿

(「隈部氏館跡」の章参照)の際に壊された後、細川氏により寛政14年(1637)に造営された。鳥居、楼門、本殿があり、歴史を感じさせる雰囲気漂い、御神木である巨大な楠木を中心に、鎮守の森が形成されている。パワースポットとしても注目されている。



御神木の楠

その中で、一風変わった石造りの仁王像(表紙)に目が留まる。神社の境内に仁王像とは、かつての神仏習合の名残だろう。厳つくて迫力ある容貌とは違い、どこことなくユーモラスというか愛嬌さえ感じさせる仁王像である。(「石工仁平」の章参照)

また、社殿に向かって右手にある石塔には、頂部に不思議な生き物が座っている。「河童」である。江戸時代の造り酒屋が集まり奉納されたということだが、なかなか洒落が効いている。



河童が座る石塔

松尾神社の近くには、切り立った壁に石仏がズラリとならぶ「岩隈山の切通し」がある。古寺跡もあり、この地帯が、神聖な地として、地元の人々に受け継がれている。



岩隈山の切通し

菊鹿発、世界品質のワインづくりを行う

平成30年(2018)にオープンした「菊鹿ワイナリー」。菊鹿町の契約農家が育てたぶどうで作ったワイン「菊鹿シリーズ」は、世界の品評会での受賞歴を持つ。レストランや売店などもある。



菊鹿ワイナリー

住 山鹿市菊鹿町相良559-2
☎ 0968-41-8585 (ワインショップ)
0968-41-8650 (カフェレストラン)

営 10:00~17:00
休 第1・3火曜日
🌐 <https://www.kikuka-winery.jp/>



千代の園酒造

古くて新しい山鹿の造り酒屋

山鹿市中心部「豊前街道」にある明治29年(1896)創業の造り酒屋。売店には史料館が併設され、昔の酒造りの道具等を見ることが出来る。

住 山鹿市山鹿1782
☎ 0968-43-2161 (月曜~金曜)
080-3357-2103 (売店直通)
営 月曜~金曜 8:00~18:00
土日祝日 9:00~16:30

PICK UP!

日本人のDNAに共鳴する神社巡りもおすすめ

山鹿市菊鹿町と言わず、全国各地にある神社。祀られる神様は様々だが、古来より、自然への畏敬の念を持ち続ける日本人にとって、心の拠り所という存在ではないだろうか。

菊鹿町には「肥後国誌」では「正一位八幡宮」と記されている「内田八幡宮」や、急勾配の石段が独特な雰囲気漂わせる「深瀬熊野座神社」など、地元可愛さ、長く守られている神社が多く存在する。

それらを巡り、鳥居や狛犬、社殿、境内の石積みなど、その一つひとつに、きつと何かを感じるに違いない。

神秘のシンパシー!



深瀬熊野座神社



内田八幡宮